

介護ロボット導入計画書

法人名 (株式会社ミトリ)
 介護事業所名 (三鳳訪問介護ステーション)
 介護保険事業所番号 (2372005088)
 サービス種別 (訪問介護)

導入する介護ロボットについて	①介護ロボットの種別	移乗介護
	②介護ロボットの製品名	ROBOHELPER SASUKE

導入時期 (予定)	導入台数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和4年12月予定	1台	令和4年12月予定	

(1) 事業概要及びスケジュール

説明：研修会 (7/20)にサービスの方々に介護ロボットの体験説明会をしてもらいました。今後は、職員が安心・安全に使用できるように介護ロボットを使用した研修会を適宜実施していく予定。
 導入スケジュール：申請→補助金交付→業者に発注→納品→研修会→導入→実績報告→導入効果報告 (年度ごとの報告)

(2) 導入する意義・目的

利用者と介助者双方の介助時の接触による身体と心理的負担の軽減。移乗介助業務の効率化による労働環境の改善を目的として導入します。

(3) 介護ロボットの導入により達成すべき目標 (導入後3年間)

利用者様と職員の身体負担を軽減して、双方が安心して移乗を行う事ができるように職員が機械の操作に慣れて行う事ができるようにする。

(4) 介護ロボットの導入により期待される効果等

利用者様の不安を軽減して移乗時に体の負荷を分散することによって、身体の痛みを伴う事なく移乗ができるようになる。職員も体にかかる負担がなくなる事で身体的な介助のリスクを無くす事ができる。

(5) 適用を受けようとする補助率

1/2

(6) 補助率の3/4の要件の確認

※補助率3/4の適用を受けようとする場合は、記載すること。

※「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」
（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること。

①少なくとも見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用し、従前の介護職員等の人員体制の効率化を行うとともに、利用者のケアの質の維持・向上や職員の休憩時間の確保等の負担軽減に資する取組を行うことを予定している。

②見守りセンサーについて

今年度導入予定		既に導入済み	
見守りセンサーの製品名			

③インカム・スマートフォン等のICT機器について

今年度導入予定		既に導入済み	
ICT機器の製品名			

④介護記録ソフトについて

今年度導入予定		既に導入済み	
介護記録ソフトの製品名			

⑤従前の介護職員等の人員体制

⑥介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制

⑦見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用した従前の介護職員等の人員体制の効率化に関する具体的な取組内容

⑧利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組

介護ロボット導入計画書

法人名 (みなと医療生活協同組合)
 介護事業所名 (介護老人保健施設あつたの森)
 介護保険事業所番号 (2350980005)
 サービス種別 (介護老人保健施設)

導入する介護ロボットについて	①介護ロボットの種別	移乗介護
	②介護ロボットの製品名	移乗ロボット Hug TL-02

導入時期 (予定)	導入台数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和4年12月13日	4台	令和4年12月13日	

(1) 事業概要及び整備スケジュール

【概要】
 介護老人保健施設の入所及びデイケアの利用者に対する、車いすとベッド・トイレ・入浴機器等への移乗において生じる、利用者と職員双方の負担軽減を図る。

【スケジュール】
 ・2021年12月：なごや福祉用具プラザへ見学 → ・2022年1月～2月：職員への腰痛現況調査実施 →
 ・2022年3月～4月：デモ機レンタル → ・2022年4月：導入決定 → ・2022年8月：業者決定 → 契約 →
 2022年12月：機器納入予定 → ・職員への導入教育実施 → ・使用者選定 → ・使用状況検証 → 導入効果報告

(2) 導入する意義・目的

- ・利用者が安全で安心できるケアを受けることができる。
- ・職員の腰痛予防や業務効率化につながり身体面と精神面の負担が軽減する。

(3) 介護ロボットの導入により達成すべき目標 (導入後3年間)

- ・利用者が移乗介助を受ける際に、身体面および精神面の負担が軽減する。
- ・職員の移乗介助時の腰痛が軽減し、腰痛を訴える職員が減少する。
- ・介護負担の軽減により、職員が安心して長く働ける職場環境をつくる事ができる。
- ・2人で介助している利用者を1人で介助できるようになる等、効率的なケアを実践できるようになる。

(4) 介護ロボットの導入により期待される効果等

- ・利用者が安全で安心できるケアを受ける事で、利用満足度があがる。
- ・職員2人で行っている移乗介助を1人で行うことができるようになる。
- ・移乗介助に負担を感じる職員 (小柄、高齢、女性など) の負担軽減につながる。
- ・移乗動作が効率的に行えることで、介助時間の短縮や他の作業の効率化につながる。
- ・ノーリフトケアの推進による離職防止とリクルート効果につながる。

(5) 適用を受けようとする補助率

1/2

(6) 補助率の3/4の要件の確認

※補助率3/4の適用を受けようとする場合は、記載すること。

※「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」
（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること。

①少なくとも見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用し、従前の介護職員等の人員体制の効率化を行うとともに、利用者のケアの質の維持・向上や職員の休憩時間の確保等の負担軽減に資する取組を行うことを予定している。

②見守りセンサーについて

今年度導入予定

既に導入済み

見守りセンサーの製品名

③インカム・スマートフォン等のICT機器について

今年度導入予定

既に導入済み

ICT機器の製品名

④介護記録ソフトについて

今年度導入予定

既に導入済み

介護記録ソフトの製品名

⑤従前の介護職員等の人員体制

⑥介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制

⑦見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用した従前の介護職員等の人員体制の効率化に関する具体的な取組内容

⑧利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組

介護ロボット導入計画書

法人名 (社会福祉法人西春日井福祉会)
 介護事業所名 (特別養護老人ホーム あいせの里)
 介護保険事業所番号 (2375200124)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

導入する介護ロボットについて	①介護ロボットの種別	移乗介護
	②介護ロボットの製品名	Hug T1-02

導入時期 (予定)	導入台数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和5年1月末	2台	令和5年1月末	

(1) 事業概要及びスケジュール

【事業概要】
 ・入居者様のベッドから車いすへの移乗やトイレを利用する等の移乗介護において、介護ロボットを導入することにより、自立支援や生活の質への影響を最小限に留めつつ、職員の介護負担の軽減を図る。
【スケジュール】
 補助金申請⇒交付決定⇒業者決定 (発注) ⇒機器導入 (1月末予定) ⇒職員向け説明会⇒使用 (導入) ⇒使用状況、安全確認等検証⇒導入効果報告

(2) 導入する意義・目的

- ・入居者様の自立した生活を継続する。
- ・職員への身体的負担を減らす。
- ・業務の効率化を図る。
- ・離職の防止につなげる。

(3) 介護ロボットの導入により達成すべき目標 (導入後3年間)

- ・入居者様のADL維持・向上。(入居者様の自立支援に活用することができる。)
- ・職員の介護負担の軽減。(職員の身体的負担が軽減され、腰痛予防につながる。)
- ・二人介助で行っていた介助が一人でできることで、業務の効率化を図る。

(4) 介護ロボットの導入により期待される効果等

- ・職員2名で体を支える介助が必要な入居者様に対して、機器を導入することにより1名で介助することができ、職員の身体的負担の軽減や業務の効率化、離職の防止につなげる。
- ・入居者様の残存機能を使いながら、おむつに頼らずトイレで排泄するよう取り組むことができる。
- ・介護の質にばらつきがあるため介護の標準化を図る。
- ・新型コロナウイルス感染防止に向け、非接触型の介護ロボットを導入し感染リスクの軽減を図る。

(5)適用を受けようとする補助率

1/2 /

(6) 補助率の3/4の要件の確認

※補助率3/4の適用を受けようとする場合は、記載すること。
※「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」
（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること。

①少なくとも見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用し、従前の介護職員等の人員体制の効率化を行うとともに、利用者のケアの質の維持・向上や職員の休憩時間の確保等の負担軽減に資する取組を行うことを予定している。

②見守りセンサーについて

今年度導入予定		既に導入済み	
見守りセンサーの製品名			

③インカム・スマートフォン等のICT機器について

今年度導入予定		既に導入済み	
ICT機器の製品名			

④介護記録ソフトについて

今年度導入予定		既に導入済み	
介護記録ソフトの製品名			

⑤従前の介護職員等の人員体制

⑥介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制

⑦見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用した従前の介護職員等の人員体制の効率化に関する具体的な取組内容

⑧利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組

介護ロボット導入計画書

法人名 (社会福祉法人知多学園)
 介護事業所名 (特別養護老人ホーム論地がるてん)
 介護保険事業所番号 (2394600031)
 サービス種別 (地域密着型介護老人福祉施設)

導入する介護ロボットについて	①介護ロボットの種別	移乗介護
	②介護ロボットの製品名	J-PAS フレアリー

導入時期 (予定)	導入台数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
2023年2月	3	2023年2月	

(1) 事業概要及びスケジュール

・当該機器の導入により、移乗介助時の腰への負担を軽減し腰痛予防対策につなげる。介護職員への負担軽減対策を積極的に進めることは、利用者への負担軽減にも寄与し、より質の高い介護の提供となる。

【スケジュール】
 8月22日～24日 デモ機試用
 8月中 職員からの意見聴取
 導入決定後、業者との契約
 2月 機器導入・運用開始

(2) 導入する意義・目的

・当施設利用者の平均介護度は年々上昇しており、移乗介助に係る職員の負担が増している。厚生労働省から示されている『介護従事者の腰痛予防対策チェックリスト』を実施した結果、移乗介助時のリスク見積りが高く対策を講じる必要がある。

(3) 介護ロボットの導入により達成すべき目標 (導入後3年間)

【介護従事者の腰痛予防対策チェックリスト】
 移乗介助時の腰痛リスクを下げる。(23名中)
 現状：高リスク者13.0% (3名)、中リスク者47.8% (11名)、低リスク者39.1% (9名)
 1年後：高リスク者0%、中リスク者60%、低リスク者40%
 3年後：高リスク者0%、中リスク者30%、低リスク者70%

(4) 介護ロボットの導入により期待される効果等

・腰痛予防対策を積極的に進めることで腰痛による離職、休職を防ぐことができる。離職率が低下することは働きやすい職場 (子育てスタッフ、高齢スタッフ等) して雇用が安定する。
 ・新人職員・経験の浅い職員が移乗介助のスキル (支持基底面積の確保やテコの原理等の知識とテクニック) を身に付けるための教育・指導には多くの時間と労力を必要とするが、介護ロボットを導入することにより教育職員の負担が軽減される。また、職員のスキルや経験によるケアのばらつきも減少する。

(5)適用を受けようとする補助率

3/4

(6) 補助率の3/4の要件の確認

※補助率3/4の適用を受けようとする場合は、記載すること。
 ※「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」
 （厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること。

①少なくとも見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用し、従前の介護職員等の人員体制の効率化を行うとともに、利用者のケアの質の維持・向上や職員の休憩時間の確保等の負担軽減に資する取組を行うことを予定している。	○
--	---

②見守りセンサーについて

今年度導入予定	○	既に導入済み	
---------	---	--------	--

見守りセンサーの製品名	見守りライフ		
-------------	--------	--	--

③インカム・スマートフォン等のICT機器について

今年度導入予定		既に導入済み	○
---------	--	--------	---

ICT機器の製品名	iPad mini		
-----------	-----------	--	--

④介護記録ソフトについて

今年度導入予定		既に導入済み	○
---------	--	--------	---

介護記録ソフトの製品名	ケアカルテ		
-------------	-------	--	--

⑤従前の介護職員等の人員体制	常勤介護職員13名、非常勤介護職員7名、常勤換算17.6名
----------------	-------------------------------

⑥介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制	常勤介護職員12名、非常勤介護職員5名、常勤換算14.7名
----------------------------	-------------------------------

⑦見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用した従前の介護職員等の人員体制の効率化に関する具体的な取組内容

【見守りセンサー】見守りライフによりナースコール＝訪室・対応の現状がナースコール＝端末やPCで状況を確認・必要に応じて訪室・対応となり介護職員の動線が短縮・適正化される。
 【ICT】ナースコール→見守りライフ(iPAD)の確認により、訪室・対応が必要かどうかの判断が視覚的に可能となる。
 【介護ソフト】実施したケアをすぐに記録することで施設内の他セクションと情報を共有することが可能となる。
 初動・協働・共有をシステム化することで職員の負担を軽減しつつ人員の効率化が図れる。

⑧利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組

【ケアの質】施設内会議で介護ロボット等の使用状況を確認し、効果と課題を整理する。効果は各ユニットで周知し共有する。課題は、①職員個人に起因するものであればON-Job・off-Jobトレーニングを企画、②チーム・仕組みの課題であれば会議で検討し対策を講じる。③機器そのものに起因するものであれば、業者・メーカーに問い合わせ、改善依頼をする。
 介護ロボットを使いこなせるよう上記の取り組みを行なうことで職員の負担軽減につながるものとする。

介護ロボット導入計画書

法人名 (株式会社ケアセンターうらら)
 介護事業所名 (ケアセンターうらら)
 介護保険事業所番号 (2373101340)
 サービス種別 (地域密着型通所介護)

導入する介護ロボットについて	①介護ロボットの種別	移乗介護
	②介護ロボットの製品名	マッスルスーツEveryソフトフィットSMサイズ

導入時期 (予定)	導入台数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和5年1月15日	1	令和5年1月15日	-

(1) 事業概要及びスケジュール

事業概要:
 職員への身体的負荷の軽減と共に作業効率の向上を図るため、介護ロボット (マッスルスーツEveryソフトフィットSMサイズ) を業務に導入する。

スケジュール:

- 令和4年12月末 前 交付決定
- 令和5年1月中旬 業者と契約
- 令和5年1月下旬 納品
- 令和5年2月上旬 使用研修実施・実使用開始

(2) 導入する意義・目的

利用者の移乗介助については、身体的負荷 (特に腰部) が大きいことから怪我による休職・離職の要因の一つとなっている。また、複数人において介助作業を行うことは、物理的空間の確保を含め作業効率を下げる要因となっている。介助ロボットの導入は、身体的負荷の低減及び作業効率の向上が図られる可能性がある。

(3) 介護ロボットの導入により達成すべき目標 (導入後3年間)

腰痛による職員の休職・離職数の低減
 移乗介助業務等の効率化 (複数人により移乗介助を行っていたものを1人による移乗介助に移行)

(4) 介護ロボットの導入により期待される効果等

重労働や怪我による職員の休職・離職機会の低減が図られ、雇用が安定化が図られる。
 利用者様に安心して安全な介護の実践が提供でき、サービスの質の維持・向上が図られる。

(5)適用を受けようとする補助率

1/2

(6) 補助率の3/4の要件の確認

※補助率3/4の適用を受けようとする場合は、記載すること。

※「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」
（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること。

①少なくとも見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用し、従前の介護職員等の人員体制の効率化を行うとともに、利用者のケアの質の維持・向上や職員の休憩時間の確保等の負担軽減に資する取組を行うことを予定している。

②見守りセンサーについて

今年度導入予定		既に導入済み	
見守りセンサーの製品名			

③インカム・スマートフォン等のICT機器について

今年度導入予定		既に導入済み	
ICT機器の製品名			

④介護記録ソフトについて

今年度導入予定		既に導入済み	
介護記録ソフトの製品名			

⑤従前の介護職員等の人員体制

⑥介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制

⑦見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用した従前の介護職員等の人員体制の効率化に関する具体的な取組内容

⑧利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組

介護ロボット導入計画書

法人名 (ハートピース 株式会社)
 介護事業所名 (ハートピース ケア)
 介護保険事業所番号 (2374900658)
 サービス種別 (訪問介護)

導入する介護ロボットについて	①介護ロボットの種別	移乗介護
	②介護ロボットの製品名	Hug T1-02

導入時期 (予定)	導入台数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和4年12月	1台	令和4年12月	

1) 事業概要及びスケジュール

(事業概要)
 高齢者住宅に入居する要介護の利用者様が自立した生活を送るための援助を目的とした入浴、排泄、食事等の介護全般

(スケジュール)
 補助金交付申請 ⇒ 導入決定 ⇒ 業者契約 ⇒ 購入機納入 (令和4年12月頃) ⇒ 職員向け使用研修
 使用状況・安全状況等の検証 ⇒ 導入効果報告

(2) 導入する意義・目的

利用者並びに職員の身体的、心理的な負担を軽減し、安心安全な環境の整備を図る。

(3) 介護ロボットの導入により達成すべき目標 (導入後3年間)

介護ロボット導入により、安心・安全な職場環境を提供し、職員の定着につなげてゆく。
 利用者様に介護ロボット導入による無理のない介助を提供する事で、事故を防止し安全で自立した生活を送って頂く。

(4) 介護ロボットの導入により期待される効果等

- ・ ベッド、車いすからの移乗やトイレ介助時等の職員の介護負担を軽減。
- ・ 腰痛など職員の怪我や事故件数の削減
- ・ ベッド、車いすからの移乗やトイレ介助時等の利用者様の身体的負担を軽減。
- ・ 転倒事故等の利用者様の事故件数の削減

(5)適用を受けようとする補助率

1/2

(6) 補助率の3/4の要件の確認

※補助率3/4の適用を受けようとする場合は、記載すること。

※「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」
（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にする。

①少なくとも見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用し、従前の介護職員等の人員体制の効率化を行うとともに、利用者のケアの質の維持・向上や職員の休憩時間の確保等の負担軽減に資する取組を行うことを予定している。

②見守りセンサーについて

今年度導入予定		既に導入済み	
---------	--	--------	--

見守りセンサーの製品名			
-------------	--	--	--

③インカム・スマートフォン等のICT機器について

今年度導入予定		既に導入済み	
---------	--	--------	--

ICT機器の製品名			
-----------	--	--	--

④介護記録ソフトについて

今年度導入予定		既に導入済み	
---------	--	--------	--

介護記録ソフトの製品名			
-------------	--	--	--

⑤従前の介護職員等の人員体制

⑥介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制			
----------------------------	--	--	--

⑦見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用した従前の介護職員等の人員体制の効率化に関する具体的な取組内容

--	--	--	--

⑧利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組

--	--	--	--

介護ロボット導入計画書

法人名 (社会福祉法人アパティア福祉会)
 介護事業所名 (特別養護老人ホームせんりょう万両)
 介護保険事業所番号 (2372602645)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

導入する介護ロボットについて	①介護ロボットの種別	移乗介護
	②介護ロボットの製品名	移乗サポートロボット Hug T1-02

導入時期 (予定)	導入台数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和4年12月1日	5台	令和4年12月1日	

1) 事業概要及びスケジュール

【事業概要】
 トイレでの排せつ時に行う移乗・着脱介助及び、入浴時に行う移乗・着脱介助を行う時に活用することで、入居者及び職員双方の負担軽減を図る。

【導入スケジュール】
 導入決定後⇒業者発注⇒令和4年12月納品⇒導入時の研修⇒導入後の評価

(2) 導入する意義・目的

入居者にとっては、安心安全な介護を受けられることができること、また当施設の理念に基づくプライバシーに配慮した自立した排せつを目指すことができる。
 職員にとっては、排せつ介助、入浴介助時における職員の人員削減及び職員の腰痛予防を図る。

3) 介護ロボットの導入により達成すべき目標 (導入後3年間)

- ①二人介助で行っているトイレ誘導や、入浴時の脱着を一人で行えるようにする。
- ②現在施設で行っている独自の腰痛予防アンケートにて、痛みの数値の平均点を下げる。
- ③トイレに座ることで、排尿・排便を促す機会を作ることができる。

(4) 介護ロボットの導入により期待される効果等

- ①二人介助の支援を一人で行うことで、人員の削減及び他の支援にかける人員を確保できる。
- ②腰部への負担が軽減されることで腰痛予防につながり、腰痛による離職・退職を防ぐことができる。
- ③入居者にとって、オムツではなくトイレでの排泄の機会を作ることができる。

(5)適用を受けようとする補助率

1/2

(6) 補助率の3/4の要件の確認

※補助率3/4の適用を受けようとする場合は、記載すること。
※「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」
（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること。

①少なくとも見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用し、従前の介護職員等の人員体制の効率化を行うとともに、利用者のケアの質の維持・向上や職員の休憩時間の確保等の負担軽減に資する取組を行うことを予定している。

②見守りセンサーについて

今年度導入予定		既に導入済み	
見守りセンサーの製品名			

③インカム・スマートフォン等のICT機器について

今年度導入予定		既に導入済み	
ICT機器の製品名			

④介護記録ソフトについて

今年度導入予定		既に導入済み	
介護記録ソフトの製品名			

⑤従前の介護職員等の人員体制

⑥介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制

⑦見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用した従前の介護職員等の人員体制の効率化に関する具体的な取組内容

⑧利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組

介護ロボット導入計画書

法人名 (社会福祉法人観寿々会)
 介護事業所名 (洲原ほーむ)
 介護保険事業所番号 (2372900056)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

導入する介護ロボットについて	①介護ロボットの種別	移乗介護
	②介護ロボットの製品名	Hug T1-02

導入時期 (予定)	導入台数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和4年12月	1台	令和4年12月1日	

1) 事業概要及びスケジュール

利用者数100名ショートステイ20名計120床 従業員数69名 介護職員数50名(常勤、非常勤含む)
 2フロア体制 従来型施設

令和4年10月 デモ機導入、業者による説明会、職員周知、対象利用者選定
 令和4年12月 機器導入
 令和5年1月 導入後1ヶ月使用状況確認

(2) 導入する意義・目的

利用者のトイレ介助、車椅子の移乗介助の際に使用する事により、利用者の残存機能を活かし、無理なく安全に移乗できることで利用者、職員の双方の負担軽減を図る。又、2名で実施している介助を1名で実施出来る事により生産性向上を図る。

(3) 介護ロボットの導入により達成すべき目標 (導入後3年間)

利用者の身体を持ち上げる介護ロボットを導入する事で職員の移乗介助の身体的負担、精神的な負担を軽減し、腰痛に伴う業務内容の限定を導入前より低減させる。利用者の安全面や安心感等の精神的な負担の軽減を図る。職員へ導入に関して負担軽減がなされているか定期的にアンケートを実施する。

(4) 介護ロボットの導入により期待される効果等

ベッド⇄車椅子、便座⇄車椅子等への移乗の際、立ち上がり不安定の方でも安心して移乗、トイレ内排泄が出来、職員も安心して移乗介助を行う事ができる。
 移乗介助を2名から1名介助に変更できることにより、生産性向上が図れる。
 職員による介助方法の差異が機器使用により均一化され利用者も安心して介助を受ける事ができる。
 ノーリフトを推進し、介護手法を変更する事で、腰痛予防を推進できる。

(5)適用を受けようとする補助率

1/2

(6) 補助率の3/4の要件の確認

※補助率3/4の適用を受けようとする場合は、記載すること。

※「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」
（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること。

①少なくとも見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用し、従前の介護職員等の人員体制の効率化を行うとともに、利用者のケアの質の維持・向上や職員の休憩時間の確保等の負担軽減に資する取組を行うことを予定している。

②見守りセンサーについて

今年度導入予定		既に導入済み	
見守りセンサーの製品名			

③インカム・スマートフォン等のICT機器について

今年度導入予定		既に導入済み	
ICT機器の製品名			

④介護記録ソフトについて

今年度導入予定		既に導入済み	
介護記録ソフトの製品名			

⑤従前の介護職員等の人員体制

⑥介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制

⑦見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用した従前の介護職員等の人員体制の効率化に関する具体的な取組内容

⑧利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組

介護ロボット導入計画書

法人名 (社会福祉法人 八起社)
 介護事業所名 (特別養護老人ホーム東和荘)
 介護保険事業所番号 (2375700180)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

導入する介護ロボットについて	①介護ロボットの種別	移乗介護
	②介護ロボットの製品名	移乗サポートロボットHugT1

導入時期 (予定)	導入台数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和4年12月31日	2台	令和4年12月31日	

(1) 事業概要及びスケジュール

【事業概要】 移乗サポートロボットHugT1を導入し、入所者の移乗サポート、職員の業務負担軽減をするもの。また、リハビリテーションにも活用でき、脚力維持や座位保持の効果を期待するもの。

【導入スケジュール】

令和4年12月 機器導入及び使用説明
 適宜、機器使用方法のフォローアップ説明会を実施

(2) 導入する意義・目的

移乗サポートロボットを活用することで、座位が確保することが出来ず、ポータブルトイレが利用することが困難だった入所者も座ってトイレが出来、より自然な排便を促すことが出来る。対象者への移乗サポートロボットを使ったリハビリテーションを定着することで、座位保持による血流改善、入所者の脚力維持が期待出来る。業務負担を軽減することで、職員の腰痛予防に資するもの。

(3) 介護ロボットの導入により達成すべき目標 (導入後3年間)

- ①移乗サポートロボットを活用した移乗支援定着し、業務への負担軽減を図る。
- ②移乗サポートロボットを活用し、対象者へのリハビリテーションを定着し、入所者の座位保持・脚力維持。
- ③業務負担を軽減することで、職員の腰痛予防に資するもの。

(4) 介護ロボットの導入により期待される効果等

- ①移乗サポートロボットを活用し、業務中の身体的負担軽減。
- ②移乗サポートロボットを活用し、入所者の座位保持・脚力維持をすることによる意欲向上。
- ③業務負担を軽減することで、入所者の処遇向上。

(5)適用を受けようとする補助率			
3/4			
(6) 補助率の 3 / 4 の要件の確認 ※補助率 3 / 4 の適用を受けようとする場合は、記載すること。 ※「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」 （厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること。			
①少なくとも見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用し、従前の介護職員等の人員体制の効率化を行うとともに、利用者のケアの質の維持・向上や職員の休憩時間の確保等の負担軽減に資する取組を行うことを予定している。		○	
②見守りセンサーについて			
今年度導入予定	○	既に導入済み	×
見守りセンサーの製品名	見守りSCAN NN-1520		
③インカム・スマートフォン等のICT機器について			
今年度導入予定	○	既に導入済み	×
ICT機器の製品名	インカム ティーピーアイ KX-Z837		
④介護記録ソフトについて			
今年度導入予定	×	既に導入済み	○
介護記録ソフトの製品名	東経システム 福祉見聞録		
⑤従前の介護職員等の人員体制			
⑥介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制			
⑦見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用した従前の介護職員等の人員体制の効率化に関する具体的な取組内容			
眠りSCANは、体調不良者の見守りターミナルケアに活用。インカムは従来型の施設であるため、広い施設内での職員間のコミュニケーション等に活用し、人探し、物探しに使用する時間を短縮、短縮した時間を職員の休憩時間や、入所者のケアに充てる。また、ケア中の人探し、物探しは転倒転落のリスクにも繋がるため、転倒転落予防の効果も期待するもの。介護ソフトである福祉見聞録は介護ケア記録・看護ケア記録を管理し、全職員が何時でも確認出来るように設置してある。			
⑧利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組			
広い施設内を各職員がコミュニケーション及び情報共有し、ケアに当たるのは困難である。そのためのケア記録を電子化し、情報共有をするシステム作りは、長期間実施しており、定着している。広い施設内をカバーするために、コミュニケーション機器導入し、個別に体調管理できる機器を導入することで、情報共有、職員の人探し、物探しに係る時間を削減し、ケアや休憩時間に充てるもの。介護事故防止の検討の中で、ケア中の転倒転落を予防が必須と判断、インカムの活用で協力要請等で未然に防げれば、事後報告等に不随する時間も短縮できる。			

介護ロボット導入計画書

法人名 (株式会社いろは)
 介護事業所名 (デイサービスいろは)
 介護保険事業所番号 (2392100695)
 サービス種別 (地域密着型通所介護)

導入する介護ロボットについて	①介護ロボットの種別	移乗介護
	②介護ロボットの製品名	マッスルスーツEveryソフトフィット

導入時期 (予定)	導入台数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和4年12月1日	2台	令和4年12月1日	

(1) 事業概要及びスケジュール

・当該機器導入により、介護職員の腰の業務負担を軽減すると共に、腰痛負担に役立てる。 ・交付
 決定後速やかに発注し、導入する。

(2) 導入する意義・目的

職員の身体的負担軽減により、安心・安全に働ける職場作りの実現。

(3) 介護ロボットの導入により達成すべき目標 (導入後3年間)

・介護職員の移乗介護時の腰痛の軽減及び腰痛予防。 ・介護負
 担軽減により、安心して長く働ける職場環境を作る。 ・ケアの質の向上
 に繋げる。

(4) 介護ロボットの導入により期待される効果等

・介護職員の腰痛軽減及び腰痛予防が出来る。 ・身体的
 負担が軽減されることにより、職員の安定雇用につながる。 ・職員、利用者の
 安心できる介護が行える。

(5) 適用を受けようとする補助率

1/2

(6) 補助率の3/4の要件の確認

※補助率3/4の適用を受けようとする場合は、記載すること。
※「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」
（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること。

①少なくとも見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用し、従前の介護職員等の人員体制の効率化を行うとともに、利用者のケアの質の維持・向上や職員の休憩時間の確保等の負担軽減に資する取組を行うことを予定している。

②見守りセンサーについて

今年度導入予定		既に導入済み	
見守りセンサーの製品名			

③インカム・スマートフォン等のICT機器について

今年度導入予定		既に導入済み	
ICT機器の製品名			

④介護記録ソフトについて

今年度導入予定		既に導入済み	
介護記録ソフトの製品名			

⑤従前の介護職員等の人員体制

⑥介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制

⑦見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用した従前の介護職員等の人員体制の効率化に関する具体的な取組内容

⑧利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組

介護ロボット導入計画書

法人名 (株式会社イト通テクノロジー)
 介護事業所名 (ヘルパーステーションりぼっけ)
 介護保険事業所番号 (2370304285)
 サービス種別 (訪問介護)

導入する介護ロボットについて	①介護ロボットの種別	移乗介護
	②介護ロボットの製品名	マッスルスーツEvery ✓

導入時期 (予定)	導入台数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和5年1月15日 ✓	2台 ✓	令和5年1月15日	令和 年 月 日 令和 年 月 日

(1) 事業概要及びスケジュール

移乗・排泄・入浴など日常の介助において腰部にかかる負担を低減することで、腰痛を引き起こすリスクを減らす。
 導入決定後→業者と契約→令和5年1月30日納品 (予定) →使用研修実施→使用状況検証→導入効果報告

(2) 導入する意義・目的

- ・介護職員の移乗などに係る身体的負担の低減

(3) 介護ロボットの導入により達成すべき目標 (導入後3年間)

- ・介護職員の腰痛予防及び軽減
- ・職員の移乗介助時、排泄介助などの中腰姿勢での身体的負担の軽減
- ・ケアの質の向上
- ・腰痛に対しての離職率の低下

(4) 介護ロボットの導入により期待される効果等

- ・職員の腰部への負担が大きく軽減され、腰痛予防が図られることで、腰痛による離職及び休職を防ぎ、また年齢を重ねても介護業務に従事することが可能となり、職員の安定雇用へ繋がる効果が期待できる。
- ・職員、ご利用者双方が安心できる介護の実践

(5)適用を受けようとする補助率

1/2 ✓

(6) 補助率の3/4の要件の確認

※補助率3/4の適用を受けようとする場合は、記載すること。
 ※「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」
 （厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること。

①少なくとも見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用し、従前の介護職員等の人員体制の効率化を行うとともに、利用者のケアの質の維持・向上や職員の休憩時間の確保等の負担軽減に資する取組を行うことを予定している。

②見守りセンサーについて

今年度導入予定		既に導入済み	
見守りセンサーの製品名			

③インカム・スマートフォン等のICT機器について

今年度導入予定		既に導入済み	
ICT機器の製品名			

④介護記録ソフトについて

今年度導入予定		既に導入済み	
介護記録ソフトの製品名			

⑤従前の介護職員等の人員体制

⑥介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制

⑦見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用した従前の介護職員等の人員体制の効率化に関する具体的な取組内容

⑧利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組

介護ロボット導入計画書

法人名 (社会福祉法人フラワー園)
 介護事業所名 (特別養護老人ホーム)
 介護保険事業所番号 (2371000205)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

導入する介護ロボットについて	①介護ロボットの種別	移乗介護
	②介護ロボットの製品名	HUG TI-02

導入時期 (予定)	導入台数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和5年1月31日	2台	令和5年1月31日	

(1) 事業概要及びスケジュール

活用方法
 ・排泄や入浴・移乗の場面で「抱えない」ケアを念頭に置いている。
 導入スケジュール
 購入日…R5.1月
 導入日…R5.1月
 運用開始日…R5.1月
 研修・説明会…現在調整中。メーカーともスケジュールを確認中。

(2) 導入する意義・目的

入所者の自立支援に繋げる。職員の腰痛予防。

(3) 介護ロボットの導入により達成すべき目標 (導入後3年間)

現在HUG1台導入しているが、入浴と排泄で利用者が重なった際に使用することが困難であり、利用者にお待ちいただく場面がある。別のフロアでも検討しているが1台では効率的な動きが困難なため、台数を増やすことによる効率化を目指す。
 追加導入による達成目標は、場面の違う介助に対しても、利用者が道具が無いために待つ場面を少なくすること、現在負担のかかっている移乗介助の場面で介護ロボットを使用することにより、利用者・職員共に負担軽減をする。また、利用者の「できる」を感じる事ができるよう、介助場面の手段を増やし生活のハリを持つ。

(4) 介護ロボットの導入により期待される効果等

【職員の腰痛軽減】
 現在、HUGの利用者は5名。1台導入しているが排泄介助や入浴介助時に使用できない方がおり、人力で行うことがある。また、他フロアに対象者はいるが現状人力で行っている。HUGを増やすことによる負担軽減が見込まれる。
 【業務のスリム化】
 HUG使用の入所者1名がお手洗いに行くと、他の方が列を作り待っていただいている状況。購入により入所者をお待たせすることなくお手洗いの対応が可能となる。また、2名介助で実施している場面を1名で行うことにより業務スリム化につながる。

(5) 適用を受けようとする補助率

3/4

(6) 補助率の3/4の要件の確認

※補助率3/4の適用を受けようとする場合は、記載すること。

※「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること。

①少なくとも見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用し、従前の介護職員等の人員体制の効率化を行うとともに、利用者のケアの質の維持・向上や職員の休憩時間の確保等の負担軽減に資する取組を行うことを予定している。

○

②見守りセンサーについて

今年度導入予定		既に導入済み	○
---------	--	--------	---

見守りセンサーの製品名	眠りスキャン		
-------------	--------	--	--

③インカム・スマートフォン等のICT機器について

今年度導入予定		既に導入済み	○
---------	--	--------	---

ICT機器の製品名	IPAD		
-----------	------	--	--

④介護記録ソフトについて

今年度導入予定		既に導入済み	○
---------	--	--------	---

介護記録ソフトの製品名	ケアカルテ		
-------------	-------	--	--

⑤従前の介護職員等の人員体制

2.3対1

⑥介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制

2.3対1

⑦見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用した従前の介護職員等の人員体制の効率化に関する具体的な取組内容

3点に関しては、すでに導入済みであり、人員体制に変化が無くとも緩和できた部分で利用者様のニーズに応える時間取得に向けた体制を整える。

⑧利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組

上記同様。
更に、排泄介助での「抱える」動作を減らし職員の腰痛予防に努めると同時にHUGを使用する事で利用者様を待たせないケアに努める。

介護ロボット導入計画書

法人名 (社会福祉法人一期一会福祉会)
 介護事業所名 (特別養護老人ホーム岩倉一期一会荘)
 介護保険事業所番号 (2374700041)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

導入する介護ロボットについて	①介護ロボットの種別	移乗介護
	②介護ロボットの製品名	J-PAS fleairy

導入時期 (予定)	導入台数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和4年12月27日	4台	2022/12/22	

1) 事業概要及びスケジュール

特別養護老人ホームで車椅子を使用されている利用者の離床・就寝介助を行う際に生じる移乗時の利用者、職員の負担軽減を図る。離床・就寝介助に同時に携わる職員がいるため、各フロア2台の合計4台を導入し、業務の効率化を図る。また、機器の効果を最大限に発揮するため、職員の体格に合わせた装具を同時に導入する。
 令和4年8月 機器導入事前調査、業者による介護ロボットのデモンストレーション
 令和4年10月 業者による機器導入説明会、デモ機器の試用
 令和4年12月 導入機器の使用説明会、研修実施
 令和5年1月 使用状況の確認
 令和5年3月 導入効果検証の実施

(2) 導入する意義・目的

利用者がより安全で安楽に離床・就寝できる環境を整えることで、介助に対して安心していただけるようにする。また、介助を行う職員が誰でも使用できる介護ロボットを導入することで、腰痛等を引き起こす要因を軽減し、長く勤めることができる職場環境を整備し、職員の負担軽減を図り、蓄積された経験等を次世代の職員につなぐことができるようにする。

(3) 介護ロボットの導入により達成すべき目標 (導入後3年間)

職員の移乗介助等の身体的負担を軽減し、腰痛等の発生を低減させる。また、それを理由とする業務内容の調整、職員の離職等を導入前より低減させる。
 移乗介助等の身体的負担を軽減すると同時に、介助に対する精神的負担の軽減を図ることで業務効率の向上、職員のモチベーションの維持・向上につなげ、職員の勤続年数を向上させる。

(4) 介護ロボットの導入により期待される効果等

職員の身体的・精神的負担が緩和されることで、経験、年齢を重ねた職員が継続して勤務することが可能になり、ケアの質の向上、モチベーションの維持・向上といった効果が期待ができる。また、職員の健康維持、離職防止についても効果を期待することができる。
 導入を予定している介護ロボットは使用する職員の状況に合わせた活用が可能であり、誰もが等しくその効果を得ることが期待できる。さらに新規入職者が介助業務に慣れるまでに無理な介助をすることがなくなり、腰痛等の体調不良による休みや早期離職を防ぐことができる。

(5)適用を受けようとする補助率

3/4

(6) 補助率の3/4の要件の確認

※補助率3/4の適用を受けようとする場合は、記載すること。
※「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」
（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること。

①少なくとも見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用し、従前の介護職員等の人員体制の効率化を行うとともに、利用者のケアの質の維持・向上や職員の休憩時間の確保等の負担軽減に資する取組を行うことを予定している。

○

②見守りセンサーについて

今年度導入予定		既に導入済み	○ /
---------	--	--------	-----

見守りセンサーの製品名	眠りSCAN		
-------------	--------	--	--

③インカム・スマートフォン等のICT機器について

今年度導入予定		既に導入済み	○ /
---------	--	--------	-----

ICT機器の製品名	ほのぼのTALK（インカム）、iPhone（ナースコール、インカム連動）、iPad・ノートパソコン（ほのぼのNEXT連動）		
-----------	---	--	--

④介護記録ソフトについて

今年度導入予定		既に導入済み	○ /
---------	--	--------	-----

介護記録ソフトの製品名	ほのぼのNEXT		
-------------	----------	--	--

⑤従前の介護職員等の人員体制	ICT機器等導入前（2020年）：介護職員の1か月常勤換算数（正・非） 41.4人
----------------	--

⑥介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制	ICT機器等導入後（2021年）：介護職員の1か月常勤換算数（正・非） 40.3人
----------------------------	--

⑦見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用した従前の介護職員等の人員体制の効率化に関する具体的な取組内容

見守りセンサーによりモニター及び端末機で利用者の状態を確認することができ、巡回や訪室の回数を軽減。端末機の内線機能やインカムによりタイムリーで移動の少ないコミュニケーションを実現。介護記録ソフトにより記載内容を端末機等で随時確認できるため、複数回の伝達がいらなくなっている。以上、主な取り組みになるが、それぞれを端末機で一括に管理することができており、効率化が図れていると考えている。

⑧利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組

端末機で情報を一括管理することにより、職員が共通した認識で介護にあたることができ、ムラのない介護の提供ができています。またタイムリーな情報を一括で得られることにより、移動やコミュニケーションを複数回行う負担の軽減、複数の記録確認の手間を省く事ができています。

介護ロボット導入計画書

法人名 (社会福祉法人 来光会)
 介護事業所名 (介護老人福祉施設えもり)
 介護保険事業所番号 (2372204921)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

導入する介護ロボットについて	①介護ロボットの種別	移乗介護
	②介護ロボットの製品名	移乗サポートロボット Hug T1-02

導入時期 (予定)	導入台数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和 (2023) 年2月	2台	令和 (2023) 年1月	

(1) 事業概要及びスケジュール

事業概要

移乗サポートロボット「Hug T1-02」を使用することにより、ご利用者の移乗動作、トイレ排泄動作をサポートすることにより、業務の効率化・介護従事者の負担を軽減する。また、ご利用者の能力を使った動作を行うことにより、廃用症候群の減少、排泄機能の維持向上を狙い、ケアの質の向上を図る。

導入スケジュール

補助金交付決定後、速やかに導入する。

(2) 導入する意義・目的

ご利用者の移乗動作、トイレ排泄動作をサポートすることにより、業務の効率化・介護従事者の負担を軽減する。また、ご利用者の能力を使った動作を行うことにより、廃用症候群の減少、排泄機能の維持向上を狙い、ケアの質の向上を図る。

(3) 介護ロボットの導入により達成すべき目標 (導入後3年間)

ご利用者のADLに合わせ、個別ケアを行い、ご利用者の残存機能を生かした移乗、排泄介護を提供する。また、業務の効率化・介護従事者の負担を軽減する。

(4) 介護ロボットの導入により期待される効果等

- ・ご利用者のADLを生かした個別ケアの実現
- ・ご利用者の廃用症候群の減少、排泄機能や移乗能力の維持向上
- ・職員の精神的、身体的な負担の軽減

(5) 適用を受けようとする補助率

3/4

(6) 補助率の3/4の要件の確認

※補助率3/4の適用を受けようとする場合は、記載すること。

※「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」
（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること。

①少なくとも見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用し、従前の介護職員等の人員体制の効率化を行うとともに、利用者のケアの質の維持・向上や職員の休憩時間の確保等の負担軽減に資する取組を行うことを予定している。

○

②見守りセンサーについて

今年度導入予定		既に導入済み	○
---------	--	--------	---

見守りセンサーの製品名	見守り支援システム 「眠りスキャン」		
-------------	--------------------	--	--

③インカム・スマートフォン等のICT機器について

今年度導入予定		既に導入済み	○
---------	--	--------	---

ICT機器の製品名	NDソフト電子カルテ、アイパッド		
-----------	------------------	--	--

④介護記録ソフトについて

今年度導入予定		既に導入済み	○
---------	--	--------	---

介護記録ソフトの製品名	NDソフト ほんのぼ		
-------------	------------	--	--

⑤従前の介護職員等の人員体制

1ユニット常勤換算 5.5名

⑥介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制

1ユニット常勤換算 4名

⑦見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用した従前の介護職員等の人員体制の効率化に関する具体的な取組内容

・眠りスキャン導入後、夜勤者の巡視業務の時間が短縮された。また、電子カルテの導入により、利用者の情報をタイムリーに他職種が共有できるようになった。送り時間も電子カルテのデータ共有により短縮された。通所事業所においては、利用者家族への連絡帳作成業務に携わる職員数の軽減、作成時間の削減効果がみられた。

⑧利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組

眠りスキャンの導入により、ユニット内に臥床している利用者へ最低限の目視による安否確認が可能になり、ユニットにおいて見守り職員数の軽減につながり、休憩時間の確保へ余剰な人員の配置が不要になり人員効率が上がった。また、電子カルテの使用方法の教育を進め、階層を移動する送り事項や確認事項が減り、身体的な業務負担、業務時間の軽減につながった。

介護ロボット導入計画書

法人名 (社会福祉法人 華陽会)
 介護事業所名 (特別養護老人ホームサービスネットワーク南陽)
 介護保険事業所番号 (2371100153)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

導入する介護ロボットについて	①介護ロボットの種別	移乗介護
	②介護ロボットの製品名	Hug T1-02

導入時期 (予定)	導入台数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和4年12月中	3台	令和4年12月中	

(1) 事業概要及びスケジュール

令和2年度の介護ロボット導入支援事業の補助を受け現在2台の同機器を導入し、特別養護老人ホーム利用者の活動に合わせ移乗が必要な場面において使用できている。しかし使用対象者に対する機器の台数の不足から、従前の介護職員2名での移乗介助を行なう場面がある為、導入台数を増やし使用場面の拡大につなげる。

令和4年9月 機器導入事前調査
 令和4年12月 機器導入
 令和5年2月 導入効果検証

(2) 導入する意義・目的

機器を使用する事で介護技術の差をなくし、移乗の際に生じる利用者と職員双方の負担軽減を図り、安全で快適な移乗を行う。
 2名体制での移乗が1名で行え、介護業務の負担軽減、利用者と職員の双方に安全な介護サービスの提供を行う。

(3) 介護ロボットの導入により達成すべき目標 (導入後3年間)

全職員を対象とした介護ロボットの適切な活用方法を含めた介護技術研修の実施
 介護職員の腰痛発生率の低下 (令和3年12月の腰痛者72.5%を70%へ)
 離職率の維持 (令和3年度 離職率0%) と共に、新規職員の採用定着につなげる

(4) 介護ロボットの導入により期待される効果等

移乗時に生じる利用者及び職員の身体的・精神的負担の軽減
 全職員を対象とした操作研修等を通じ介助技術のスキルアップ
 また、それに伴う介護サービスの質の向上により利用者の処遇の改善
 移乗の2名介助を1名介助で行うことが可能となり、職員のマンパワー不足の軽減
 適切な介護ロボットの使用による、利用者の身体能力の維持・向上につなげる

(5) 適用を受けようとする補助率

3/4

(6) 補助率の3/4の要件の確認
 ※補助率3/4の適用を受けようとする場合は、記載すること。
 ※「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」
 （厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にする。

①少なくとも見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用し、従前の介護職員等の人員体制の効率化を行うとともに、利用者のケアの質の維持・向上や職員の休憩時間の確保等の負担軽減に資する取組を行うことを予定している。 ○

②見守りセンサーについて

今年度導入予定		既に導入済み	○
---------	--	--------	---

見守りセンサーの製品名	Neos+Care		
-------------	-----------	--	--

③インカム・スマートフォン等のICT機器について

今年度導入予定		既に導入済み	○
---------	--	--------	---

ICT機器の製品名	surface		
-----------	---------	--	--

④介護記録ソフトについて

今年度導入予定		既に導入済み	○
---------	--	--------	---

介護記録ソフトの製品名	ブルーオーシャンシステム		
-------------	--------------	--	--

⑤従前の介護職員等の人員体制	2.48 : 1		
----------------	----------	--	--

⑥介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制	2.5 : 1		
----------------------------	---------	--	--

⑦見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用した従前の介護職員等の人員体制の効率化に関する具体的な取組内容

- ・介護記録ソフトを使用する事で、転記などの作業時間の削減
- ・利用者の情報をリアルタイムで共有する事で、申し送りにかかる時間や申し送り忘れによるミスの削減
- ・見守りセンサーの導入により、職員の不要な訪室の減少による業務の効率化
- ・見守りセンサーで、リアルタイムな状況の確認による事故発生リスクの軽減から介護事故に伴う業務時間の削減等により、人員体制の低減に取り組んでいる。
- ・職員及び利用者のさらなる負担の軽減、処遇の向上を目的とし新規職員の採用を図る

⑧利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組

- ・記録ソフトを使用する事で、転記などの作業時間の削減によって精神的・身体的負担の軽減
- ・利用者の情報をリアルタイムに共有する事で、申し送りにかかる時間や申し送り忘れによるミスの削減
- ・見守りセンサーの導入により、職員の不要な訪室が減少し身体的・心理的な負担の軽減
- また、リアルタイムな状況の確認で事故発生リスクの減少により、安全・安心な介護の提供
- ・機器の操作研修などを通じ介助技術のスキルアップに伴う、利用者の処遇の改善
- ・機器を必要台数導入する事で、移乗の二人介助を無くし業務の効率化及び安心・安全な介護の提供

介護ロボット導入計画書

法人名 (医療法人開生会)
 介護事業所名 (かいせいデイサービス)
 介護保険事業所番号 (2371001856)
 サービス種別 (通所介護)

導入する介護ロボットについて	①介護ロボットの種別	移乗介護
	②介護ロボットの製品名	移乗サポートロボットHug L1

導入時期 (予定)	導入台数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和5年2月1日	1台	令和5年2月1日	

(1) 事業概要及びスケジュール

【事業概要】 通所介護のご利用者で、一人での立ち上がりが難しい方、身体の大きな方に対して、車椅子からシャワーチェア、ベッドへの移乗介助と立位保持の場面で介護ロボットを活用する。ご利用者と介護職員双方の負担軽減を図る。

【日程】 令和4年8月デモ機使用 (使用方法の説明会及び、留意点の研修実施) ⇒
 令和5年2月1日導入 (予定) ⇒導入後の使用研修実施⇒使用状況の検証⇒導入効果報告

(2) 導入する意義・目的

一人で立ち上がることが難しいご利用者に対して、入浴やベッドへの移乗の場面での、一人の職員による全抱え込み介助、その他二人が介入、また、抱え込み介助ができる職員も特定されてきた為、介助が不公平となっていた。介護ロボット導入により、ご利用者と介護者、双方の負担軽減及び介護体制の整備を図ることを目的とする。

(3) 介護ロボットの導入により達成すべき目標 (導入後3年間)

- ①職員の身体的負担軽減及び、介護体制の整備を図る。
- ②ご利用者の身体的・精神的負担の軽減を図る。
- ③二人から一人介助へ移行する事で介護業務の効率化を図る。

(4) 介護ロボットの導入により期待される効果等

- ①介護職員の負担軽減を図ることで身体状況の悪化を防ぎ、健康状態の維持向上が図れる。
- ②若い世代の継続雇用が難しい状況下、次世代に繋がる介護現場となる。
- ②ご利用者の移乗を職員一人で安全に行うことで業務の効率化を図り、介護にゆとり時間を作れる。

(5) 適用を受けようとする補助率

1/2

(6) 補助率の3/4の要件の確認

※補助率3/4の適用を受けようとする場合は、記載すること。

※「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」
（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること。

①少なくとも見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用し、従前の介護職員等の人員体制の効率化を行うとともに、利用者のケアの質の維持・向上や職員の休憩時間の確保等の負担軽減に資する取組を行うことを予定している。

②見守りセンサーについて

今年度導入予定

既に導入済み

見守りセンサーの製品名

③インカム・スマートフォン等のICT機器について

今年度導入予定

既に導入済み

ICT機器の製品名

④介護記録ソフトについて

今年度導入予定

既に導入済み

介護記録ソフトの製品名

⑤従前の介護職員等の人員体制

⑥介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制

⑦見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用した従前の介護職員等の人員体制の効率化に関する具体的な取組内容

⑧利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組

介護ロボット導入計画書

法人名 (社会医療法人宏潤会)
 介護事業所名 (大同老人保健施設)
 介護保険事業所番号 (2351280009)
 サービス種別 (介護老人保健施設)

導入する介護ロボットについて	①介護ロボットの種別	移乗介護
	②介護ロボットの製品名	マッスルスーツEvery

導入時期 (予定)	導入台数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
2023年2月1日	6台	2023年2月1日	

(1) 事業概要及びスケジュール

入所者の日常生活動作に伴う移乗・排泄の介助の際に生じる介護職員の負担の軽減や腰痛予防を目的として導入する

【導入スケジュール】

2022年9月中に業者より職員へ機器の説明→デモ機使用→10月中に導入決定→業者との購入契約→2022年11月機器導入予定→使用状況検証→導入効果報告

(2) 導入する意義・目的

- ・介護職員が入所者の移乗動作やオムツ交換・体位変換・入浴介助時の移乗や立位保持、洗身等の中腰での業務において腰部への負担がかり腰痛へと繋がるリスクがある。ロボット導入により、職員の腰部負担軽減と腰痛予防を図ることができる
- ・利用者への介助時の負担軽減に繋げることができる

(3) 介護ロボットの導入により達成すべき目標 (導入後3年間)

- ・職員の腰痛による休職がない
- ・職員の移乗介助や中腰姿勢での業務における身体的、精神的負担の軽減を図る
- ・ケアの質の向上を図る
- ・業務の効率化を図る (2人で対応していた介助を1人で対応できる)

(4) 介護ロボットの導入により期待される効果等

- ・介護職員が特に夜間など単身での入所者のオムツ交換や体位変換による身体的精神的な負担が軽減し、入所者へも安心されるケアの提供ができると期待できる
- ・2人で対応している介助を1人で対応可能となれば業務の効率化や入所者へのスムーズな対応ができ、転倒転落などの事故防止にも繋げることが期待できる

(5) 適用を受けようとする補助率

3/4

(6) 補助率の3/4の要件の確認

- ※補助率3/4の適用を受けようとする場合は、記載すること。
- ※「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること。

<p>①少なくとも見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用し、従前の介護職員等の人員体制の効率化を行うとともに、利用者のケアの質の維持・向上や職員の休憩時間の確保等の負担軽減に資する取組を行うことを予定している。</p>	<p>○</p>
---	----------

②見守りセンサーについて

今年度導入予定	○	既に導入済み	
見守りセンサーの製品名	眠りSCAN		

③インカム・スマートフォン等のICT機器について

今年度導入予定	○	既に導入済み	
ICT機器の製品名	デジタルインカム		

④介護記録ソフトについて

今年度導入予定		既に導入済み	○
介護記録ソフトの製品名	寿システム		

⑤従前の介護職員等の人員体制

	看護職員13名 介護職員26.8名
⑥介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制	36名

⑦見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用した従前の介護職員等の人員体制の効率化に関する具体的な取組内容

- ・見守りセンサー「眠りSCAN」を使用し、入所者の睡眠・呼吸・心拍をリアルタイムで確認することにより不要な訪室を避ける
- ・「眠りSCAN」の通知機能を活用し、夜勤者が携帯するスマートフォンに動きのあった入所者の情報が入り、タイムリー且つ必要な際のみ職員が対応に動くことができるため、従来の「定時巡視」に変えていき、効率化を推進する。
- ・眠りSCANのモニターを見ながらタブレットにて介護記録を入力することにより記録業務削減、安全な見守りに繋げる。
- ・決まった時間ではなく入所者の状況に合わせて巡視を行う
- ・インカムを使用し入所者への迅速な対応、各職員の連絡体制の効率化を図る
- ・余剰の時間に従来他勤務時間に行っていた業務を遂行し、人員体制の効率化を図る

⑧利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組

- ・見守りセンサー「眠りSCAN」を使用し、スマートフォンにて入所者の睡眠・呼吸・心拍をリアルタイムで確認することにより、不要な訪室を避け、覚醒したタイミングに合わせて排泄ケアや体位変換・訪室を行うことにより、入所者の睡眠時間を確保する。
- ・スタッフステーションや休憩室にいる間もPC、スマートフォン、タブレット端末にてリアルタイムの各入所者の情報を確認することができるため、休憩時間の確保に繋げる。
- ・巡視の方法を「定時巡視」→「適宜巡視」へ変更することにより、訪室回数を減らし負担軽減に繋げる

介護ロボット導入計画書

法人名 (株式会社ジェネラス)
 介護事業所名 (リハビリ・ショートねもころ)
 介護保険事業所番号 (2370601334)
 サービス種別 (短期入所生活介護 (単独・併設型))

導入する介護ロボットについて	①介護ロボットの種別	移乗介護
	②介護ロボットの製品名	株式会社FUJI 製 Hug T1-02

導入時期 (予定)	導入台数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
2023年2月	1台	2023年2月	-

(1) 事業概要及びスケジュール

- ・採択後 発注依頼
- ・2023年2月 納品/スタッフ向け説明会 開始
- ・2023年3月 完了

(2) 導入する意義・目的

施設利用者のうち立位保持が難しい方を対象に、施設内のトイレ介助や送迎時等での車いすへの移乗などで使用することを目的とする。

意義として、①利用者の立ち上がり動作時での身体的負担軽減、②利用者・職員の作業時での転倒等の事故防止、③職員の介助作業時の負担軽減

(3) 介護ロボットの導入により達成すべき目標 (導入後3年間)

- ・利用者への介助サービスの質の向上を図り、特に移乗介助時での転倒等による事故0 (ヒヤリハットを含む) を目指す。
- ・移乗介助作業を起因とする腰痛予防や精神的ストレス改善など、職員が安心できる職場環境づくりと定着化 (離職防止) を図る。

(4) 介護ロボットの導入により期待される効果等

- ・利用者の移乗時での身体的・精神的負担軽減により、日々の健康維持に寄与する。
- ・移乗作業時の効率化 ※職員2人体制 (状況にもよる) ⇒1人体制へ
※ただし、職員が機器を安心して取扱いができるようになってから行う。

(5)適用を受けようとする補助率

1/2 /

(6) 補助率の3/4の要件の確認

※補助率3/4の適用を受けようとする場合は、記載すること。
 ※「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」
 （厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること。

①少なくとも見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用し、従前の介護職員等の人員体制の効率化を行うとともに、利用者のケアの質の維持・向上や職員の休憩時間の確保等の負担軽減に資する取組を行うことを予定している。

②見守りセンサーについて

今年度導入予定		既に導入済み	
見守りセンサーの製品名			

③インカム・スマートフォン等のICT機器について

今年度導入予定		既に導入済み	
ICT機器の製品名			

④介護記録ソフトについて

今年度導入予定		既に導入済み	
介護記録ソフトの製品名			

⑤従前の介護職員等の人員体制

⑥介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制

⑦見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用した従前の介護職員等の人員体制の効率化に関する具体的な取組内容

⑧利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組

介護ロボット導入計画書

法人名 (一般社団法人あるふぁ)
 介護事業所名 (へるはーおふいす・ねいろ)
 介護保険事業所番号 (2372004040)
 サービス種別 (訪問介護)

導入する介護ロボットについて	①介護ロボットの種別	移乗介護
	②介護ロボットの製品名	マッスルスーツEvery

導入時期 (予定)	導入台数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和4年11月	1台	令和4年11月	

(1) 事業概要及びスケジュール

・訪問介護での様々な介助の場面において、職員の腰部にかかる負担の軽減及び腰痛予防を図り、腰痛を引き起こすリスクを減らす。

【スケジュール】

導入決定後→業者と購入契約→令和4年11月導入(予定)→使用状況検証→導入効果報告

(2) 導入する意義・目的

・訪問介護における移乗、排泄、入浴介助などの職員の身体的負担を軽減する。
 ・当該機器の導入により、作業効率の向上を図る。

(3) 介護ロボットの導入により達成すべき目標 (導入後3年間)

・職員の腰痛を引き起こすリスクを軽減し腰痛の予防を図る。
 ・入浴介助は、職員の身体的負担のある動作が多いため、ロボットの導入により安全かつ確実に対応できるよう介護事故防止を図る。
 ・職員の身体的・精神的負担を要する介助の改善により、心身の負担の少ない働きやすい環境をつくることができる。

(4) 介護ロボットの導入により期待される効果等

・職員の腰部への負担が大きく軽減され、腰痛予防が図れることで、腰痛による離職や休職を防ぎ、年齢を重ねても介護業務に従事することが可能となり、職員の安定雇用に繋がる効果が期待できる。
 ・職員の腰痛予防、ご利用者様の転倒や転落等を未然に防ぐことが可能となる。
 ・職員・ご利用者様の心身を守り、双方が安心できる介護の実践。

(5) 適用を受けようとする補助率

1/2

(6) 補助率の3/4の要件の確認

※補助率3/4の適用を受けようとする場合は、記載すること。
 ※「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」
 （厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること。

①少なくとも見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用し、従前の介護職員等の人員体制の効率化を行うとともに、利用者のケアの質の維持・向上や職員の休憩時間の確保等の負担軽減に資する取組を行うことを予定している。

②見守りセンサーについて

今年度導入予定		既に導入済み	
見守りセンサーの製品名			

③インカム・スマートフォン等のICT機器について

今年度導入予定		既に導入済み	
ICT機器の製品名			

④介護記録ソフトについて

今年度導入予定		既に導入済み	
介護記録ソフトの製品名			

⑤従前の介護職員等の人員体制

⑥介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制

⑦見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用した従前の介護職員等の人員体制の効率化に関する具体的な取組内容

⑧利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組